

カワハギ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

カワハギは本州全域の沿岸域に棲息する釣り人から人気の魚です。“エサ取り名人”の異名を持ち、釣り人が垂らしたエサをハリからコツリ盗むのが上手いので釣り人を熱くさせるゲーム性の高さが人気の理由の一つです。カワハギの魅力はその釣趣ばかりではありません。名前のとおり簡単に皮を剥くことができるうえ、食味も抜群。



ゲーム性が高い人気ターゲットのカワハギ



カワハギの薄造りを肝醤油に付けて…

特に秋から冬にかけては肝が肥大し、脂も乗ってくるので薄造りのキモ和えや鍋もの、フライなど、何を作っても大変美味しく、それがまたさらに熱烈なファンを増やしています。

カワハギはうつりゆく季節の水温変化に応じて棲息する水深を変え、夏から秋にかけては水深 20 メートル前後、冬には水深 30 メートル前後、さらに最も水温が低くなる春先には水深 40 メートル付近にも分布します。

前述したようにカワハギはハリからエサを盗み取るのが上手な魚なので、竿先に届くアタリがとても小さく、使用する竿は高感度な穂先を有するモノが有利となります。カワハギからの僅かなアタリをキャッチするためには手で持った竿を安定させる必要がありますが、ボートが揺れてしまうと安定させることが難しくなります。特にプレジャーボートは遊漁船に比べて船体が小さく、軽いので波の影響を受けやすいのが実情です。肩の力を抜き、ボートの揺れをキャンセルするよう竿を保持する以外に対処法がありません。

周期的な波による揺れには上記方法にて比較的対処しやすいのですが、突発的に発生する波による揺れにはその対応に苦労します。例えば、他船による引き波（航走波）がその代表例です。

それ以外にも、穏やかだと思える海でも突然に予期せぬ大きな波が発生して襲ってくる場合があります。特に複数の方向からの波が存在する海域では大きな尖った波が発生することがあります。

他船の引き波を含むこういった突発的な波による影響は、何もカワハギ釣りに限ったことではありません。釣りへの影響だけでなく、状況次第では安全なボートフィッシングが損なわれる危険性もあります。

特に乾舷の低い小さなボートでは浸水や海中転落、転覆の可能性もあるので以下の点に注意しましょう。

- ・見張りを励行し、引き波や突発的な波を見つけたら、船首の方向を変えるなどの措置を行う
- ・周囲に小型船をみかけたら、速度を落とし、引き波を発生させないよう配慮する



見張りを励行し、他船による引き波に注意しよう